

羅臼町広報誌

魚の城下町

みんなが主役のまち

120th + 1

広報らうす特別号



ZERO CARBON
HOKKAIDO
RAUSU

町ホームページ

公式Facebook

公式Instagram

公式LINE



羅臼町120年 町制施行60年



これまでも これからも 知床とともに

思いをつなぎ未来へ

明治34年植別村戸長役場を設置し、自治体として独立してから、大正、昭和と激動の時代を先人たちの知恵と強い郷土愛で乗り越えてこられ、平成そして令和へとわたしたちを導いていただきました。

令和2年に120年という節目の年を迎えることができ、町民皆様とお祝いすべくいろいろと計画をしていたところ、新型コロナウイルス感染症の蔓延という予期せぬ事態となり、120年記念式典やイベントなどの主だった事業も中止を余儀なくされてしまいました。成人式など工夫を凝らし関係者や町民皆様の理解のもと開催出来た事業もありました。

これからの羅臼町は、日々変化する社会情勢や環境変化の中ではありますが、知床らうすの厳しい自然を相手に培ってきた不屈の精神と団結力で持続可能な羅臼町を次世代へ繋いでいかなければなりません。

この度発行させていただく広報らうす特別号をご覧ください。平成12年の100周年からの20年を懐かしく振り返り、そしてこれからの未来に夢と希望を描いていただくことを願って発行のあいさついたします。



令和4年3月31日
羅臼町長 湊屋 稔



目次

町長あいさつ 2

年表で見る20年

・平成13年(2001)～平成16年(2004) 3

・平成17年(2005)～平成19年(2007) 5

・平成20年(2008)～平成22年(2010) 7

・平成23年(2011)～平成25年(2013) 9

・平成26年(2014)～平成28年(2016) 11

・平成29年(2017)～令和3年(2021) 13

データで見る20年

・人口・世帯数推移 16

10歳階級別人口

外国人人口推移

産業分類別就業者数

観光入込客数

主要魚種水揚量

主要魚種水揚高

製造品出荷額

商品販売額

酪農業

園児・児童・生徒数

一般会計歳入歳出決算額

町税調定額・徴収額

ふるさと納税寄付額

..... 19

年表で見る20年

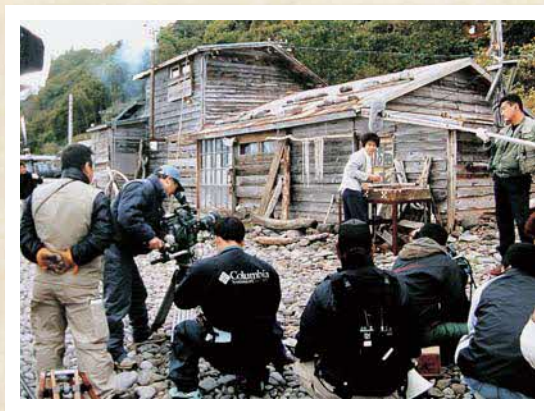
■平成13年(2001年)～平成16年(2004年)

平成13年は、テレビドラマ「北の国から」の最終作「北の国から2002遺言」が羅臼町を舞台に撮影されました。撮影クルーやお馴染みの出演者が羅臼町を訪れ、多くの町民がエキストラとして出演し、俳優らの演技を間近で見られたことから町は大いに賑わい、ドラマ放送後は撮影地点を回る観光客が多く羅臼町を訪れています。

平成14年から平成16年にかけては、いわゆる「平成の大合併」といわれる市町村合併の検討に大きく町が揺れた年となりました。根室管内4町の合併について協議が進められた結果、羅臼町と中標津町の合併で一時まとまりましたが、最後に行われた「中標津町合併の是非を問う住民投票」で、反対多数となり、最終的には合併を断念することとなりました。



▲中標津町との合併協定調印式



▲北の国からの撮影風景

平成13年(2001年)

2月3日

暴風雪により国道通行止め
雪崩も発生し町内会館や公民館へ町民避難

4月20日

らうす深層館オープン

8月24日

「知床らうす海洋深層水」商標登録

9月～翌2月

「北の国から2002遺言」羅臼町を舞台に撮影

11月1日

国指定知床鳥獣保護区拡大

平成14年(2002年)

7月19日

羅臼町、標津町、中標津町、別海町の4町の共同で
ごみ処理を行う「根室北部廃棄物処理広域連合」を
設置

10月7日

町内関係団体との市町村合併に関する意見交換会
(7日から25日までの8日間)

11月1日

ごみの分別試行(6種類12分別)

平成15年(2003年)

2月22日

第1回らうすオジロまつり開催

4月27日

第1期 協町政はじまる

7月

市内局番7局(現87局)のインターネットADSL
回線誘致を目指し「羅臼町ADSL誘致の会RIT
G」により町内募集

中標津町との合併の断念により、自立の道を歩むことになった羅臼町は、「あれも、これも」から「あれか、これか」と選択する行政運営が求められ、町職員との給与削減や事業凍結など、財政支出を極限まで抑え最低限の住民サービスを維持するための「羅臼町自立プラン」を策定し、取り組むこととなりました。

平成16年には、沖合2.8km、水深350m地点まで海洋深層水取水管の敷設を行い、陸揚げされる水産物の鮮度保持や作業環境の清掃保持が図られました。

また同年12月には、学校の老朽化が激しかった春松小学校へ通う児童の学習環境の改善を図るため、建て替えられた新校舎での学習がはじまり、小学生はもとより多くの関係者が喜びの声をあげました。



▲海洋深層水取水管敷設時の様子



▲植別小中学校開校100周年を全校生徒で祝う

平成16年（2004年）

6月13日	標津町の合併の是非を問う住民投票 「中標津町、羅臼町の合併協議に参加する27.2%」 「合併しない72.8%」
8月	海洋深層水取水管敷設
9月14日	合併後の新市名称を「東知床市」に決定
11月	88局 ADSL 開通
11月28日	中標津町の合併の是非を問う住民投票 「賛成39.2%」「反対60.8%」
12月7日	市町村合併を断念
12月13日	春松小学校新校舎での授業開始
6月～8月	「市町村合併を考える住民懇談会」を開催 (計21回)
6月27日	「根室管内4町任意合併検討協議会」設置
7月13日	植別小中学校開校100周年記念式典開催
8月	春松小学校改築事業着工
11月30日	「根室管内4町任意合併検討協議会」解散
12月1日	ごみ料金、従量制へ（12種類分別）
12月26日	羅臼町、中標津町の2町で合併に係る法定協議会を設置 合併の日を平成17年10月1日に決定

■平成17年(2005年)～平成19年(2007年)

平成17年2月、相泊地区で12頭のシャチが流氷に閉じ込められて座礁し、死亡するという事件が発生。多くのシャチが座礁する事例は、過去にもオホーツク海沿岸の町で、数回程度あったようですが、世界的に見ても非常に珍しい事例と言われています。

回収された死体は、学術標本として全国の研究者のもとに届けられました。

平成17年7月17日には、知床が世界自然遺産に登録。世界自然遺産登録については、斜里町とともに平成6年から検討を進め約10年間の歳月を経ての登録で、登録の前年より各種マスコミで話題となり、羅臼町を訪れる観光客も増加し、町の産業にもプラスの影響をもたらしました。



▲世界自然遺産登録決定の報告を受ける協町長(当時)



▲流氷に閉じ込められたシャチ

平成17年(2005年)

2月7日

相泊地区にてシャチの群れ12頭が座礁

7月14日

「知床」が世界自然遺産に登録決定

7月17日

「知床」が世界自然遺産に登録

10月13日

羅臼町・斜里町が「知床協議会」を設立

10月30日

斜里町で「知床世界自然遺産登録記念式典」開催

12月28日

高波被害による家屋浸水、道路破損

平成18年(2006年)

1月4日

高波被害により知床公園羅臼線通行止め

1月7日

安全操業によるスケソウ刺し網漁開始

1月17日

道道知床公園羅臼線 天狗岩トンネル開通

2月15日

羅臼沖でエコツアー(漁業見学体験等)開始

3月1日

知床半島周辺海岸に油に汚染された大量の海鳥の死骸発見

4月

「かあちゃんまつり」20年の歴史に幕

5月21日

道の駅「知床らうす」の来場者が80万人を突破

6月14日

全国より公募していた極上銀毛サケのブランド名を「羅皇」に決定

翌年12月には、世界全人類の宝となつたこの自然環境を保全し正しく利用し未来へ引き継ぐために、斜里町とともに共同出資し、公益財団法人知床財団を設立しました。

知床財団は、ヒグマやエゾシカなどの野生動物と人との軋轢を回避するための活動や、各学校での知床の特異な自然環境のレクチャーなど精力的に行っています。



▲知床財団によるクマ学習の様子

また、低気圧の影響による高波や家屋等の被害も多く、平成18年には、千島列島東方沖でマグニチュード7.9の地震が発生し、津波警報が出され、町民約1,300人が高台へ非難しました。幸い羅臼町での被害は発生しませんでした。が、荒天による災害だけではなく、地震についても、十分な備えをしなければならぬと防災意識が高まった出来事となりました。



▲高潮災害により多くの番屋が被害にあった

平成19年(2007年)

7月5日 「海」ミサミット知床・らうす会議」開催

7月9日 知床羅臼町観光協会設立50周年記念事業

エコツーリズムのフォーラム開催

10月8日 発達した低気圧により高潮被害、漁業・水産被害など被害多数

11月15日 千島列島東方でM7.9の地震が発生。津波警報が出され、町民1,300人が高台へ避難

12月1日 斜里・羅臼両町の共同出資により「知床財団」を設立

1月21日 安全操業中のスケソウ刺し網漁船がロシア国境警備艇に拿捕

4月1日 釧根9町村で構成される「釧路・根室広域地方税滞納整理機構」が開所

4月22日 第2期 協町政スタート

5月24日 「知床自然遺産・知床国立公園羅臼ビジターセンター」開館

10月1日 知床らうす深層水給水施設が供用開始

10月31日 羅臼漁港全天候型埠頭が完成

12月1日 町内初のグループホーム「羅臼しおさい」オープン

12月13日 スケソウ刺し網漁船4隻がロシア国境警備隊に拿捕

■平成20年(2008年)～平成22年(2010年)

平成20年は、知円別小中学校が閉校を迎え92年間の歴史に幕を降ろしました。

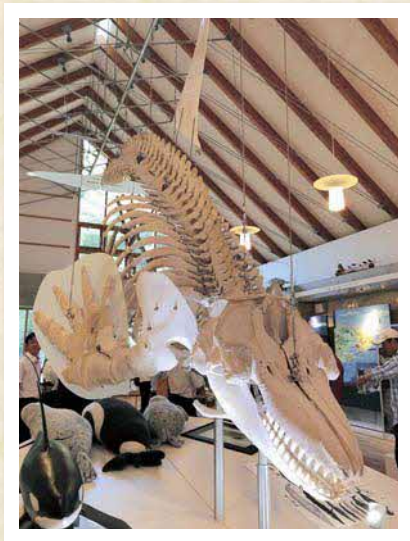
また、羅臼町民スキー場も利用者の減少を理由に、この年のシーズンを最後にリフトの稼働休止となりました。

平成21年は、北浜地区にルサフィールドハウスがオープン。知床岬先端部の利用者に対してルールやマナーをお知らせし、知床半島先端部のリアルタイムな情報を提供できるようになりました。

また、今では羅臼ビジターセンターの展示の主役であるシャチの骨格標本が展示され、この標本は平成17年に羅臼町相泊地区で座礁したシャチの1体で、全長7・6mにもなる道内では最大のものです。



▲町民スキー場での初心者スキー教室の様子



▲シャチの骨格標本(設置当時は国内最大級)

平成20年(2008年)

2月1日

根室管内1市4町「自然の番人宣言」へ調印

2月10日

知円別小中学校の閉校式

2月24日

羅臼町民スキー場スキーリフト休止

4月1日

羅臼町国民健康保険病院が診療所へ変更

7月15日

燃油高騰を受け全国一斉休漁を実施

7月17日

マツカウス洞窟(ひかりごけ) 落石により一時閉鎖

10月14日

羅臼消防団が全道消防操法訓練大会で優勝

12月8日

麻布歯科診療所が再開

12月19日

定置漁業部会の寄付により購入した高規格救急車が納車

12月19日

知床羅臼町観光協会が札幌国際大学と観光振興を目指し協定を締結

平成21年(2009年)

2月20日

拿捕されていた3漁船がロシアより返還

2月24日

羅臼ビジターセンターでシャチの骨格標本展示を開始

4月13日

定額給付金支給開始

平成21年10月から「道東ドクターヘリ」の運航が開始され、医師による速やかな救命医療の開始と併せて、高度な医療機関へ迅速な収容が可能となるなど、一分一秒を争う医療現場において、救急車両とともに重症救急患者の救命率の向上につながる医療体制が構築され、医療の面においては、大きな前進がありました。



▲救急搬送するドクターヘリ

平成22年は、児童数の減少により、植別小中学校と飛仁帯小中学校が閉校し、長い歴史に幕を降ろすこととなりました。

また、この年は様々な周年記念が重なった年でもあり、羅臼町110年町制施行50年、知床世界自然遺産登録5周年、知床旅情誕生50周年、知床横断道路開通30周年の4つの式典・セレモニーが開催され、町全体でそれぞれの節目を祝福しました。



▲加藤登紀子氏、森繁建氏と知床慕情を熱唱

4月22日	羅臼・斜里・標津・清里の4町で「知床観光圏」に認定
6月7日	「知床世界遺産ルサフィールドハウス」開館
9月6日	エコについて考える 第1回秋まつり開催
10月11日	ドクターヘリ初出動
10月23日	羅臼漁協で衛星通信漁船管理システム(VMS)運用開始
平成22年(2010年)	
1月29日	漁船2隻をロシアのヘリコプターが銃撃
2月6日	植別小中学校閉校式
2月28日	南米チリ大地震(M8.8)により津波警報発令
4月1日	飛仁帯小中学校閉校式
4月1日	学校給食費前納制導入開始 4月分納入率100%
6月7日	子ども手当支給開始
6月20日	羅臼町110年町制施行50年記念式典開催
7月11日	参議院選挙投票
7月17日	知床世界自然遺産登録5周年記念式典開催
8月1日	知床旅情誕生50周年セレモニー開催

■平成23年(2011年)～平成25年(2013年)

平成23年3月11日、日本史上に残る大災害「東日本大震災」が発生し、遠く離れた羅臼町でも地震が観測されたことから、その地震の強大さがわかります。この年の出来事と言えば、新診療所の名称決定や運営に関する協定を社会医療法人孝仁会と締結するなど、羅臼における将来の地域医療に向けた明るい話題が多くありました。

平成24年は、知床ブルーイーグルスがマーチングバンド全国大会で最高賞を受賞するという明るい話題からスタートしました。

また、人間の生活圏がヒグマの生息域と隣接している当町は、一年を通じてヒグマ対応をしています。この年は、さけますの減少や山の実りの不足からヒグマが大量出沒した年でもあり、計45頭のヒグマが捕獲されました。



▲知床ブルーイーグルス全国大会出場メンバー



▲羅臼町と孝仁会との協定調印式

平成23年(2011年)

- 3月11日 東北関東沖大地震により大津波警報発令
- 4月27日 第3期 脇町政スタート
- 7月26日 知床の地域環境保全のため、ダイキン工業と5年間の協定を締結
- 8月29日 診療所新名称「知床らうす国民健康保険診療所」に決定
- 10月3日 羅臼町・孝仁会が診療所運営で協定書に調印
- 12月26日 羅臼町郷土資料館開館(旧植別小中学校)

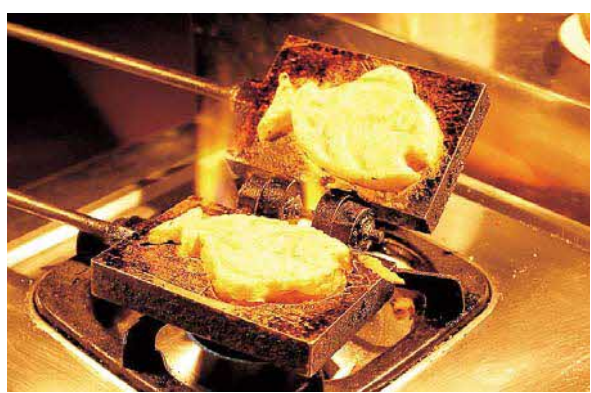
平成24年(2012年)

- 2月18日 知床ブルーイーグルス、マーチングバンド全国大会で最高賞
- 4月13日～10月8日 ヒグマ大量出沒45頭駆除
- 5月6日 羅臼町体験学習推進協議会による修学旅行生受入れスタート
- 5月26日 羅臼町の全幼小中高、ユネスコスクールに認定
- 6月 沢田知可子氏 羅臼鮭大使に就任
- 7月 診療所開始
- 8月31日 ヒグマが飼い犬を襲つ 1頭死亡
- 11月10日 羅臼町内の観光船利用、7割増
- 11月18日 知床・らうす国保診療所竣工式

平成25年の2月から4月にかけて、低気圧の発達による暴風雪が吹き荒れ、生命線である国道も標津町から羅臼町幌萌町の区間で通行止めとなり、陸の孤島と化しました。特に3月の暴風雪では、道東圏の多くの道路が通行止めとなり、中標津町では、車両に閉じ込められ一酸化炭素中毒になった方や吹雪で視界不良の中、外を彷徨ってしまった方など、5名の方が亡くなりました。

「修学旅行の受入れ」、「客船につぼん丸の寄港」、「高校生チャレンジグルメ」の初年度となった年でもあり、中でも高校生チャレンジグルメは、初出場で最高賞の「北海道知事賞」を受賞し、羅臼高校生の可能性を多くの人に知らしめました。

また、この年はイカが豊漁となり、数ヶ月で水揚げ高58億円を記録し、浜は活気に満ち溢れていました。



▲羅臼のシンボルマークをかたどった、らうす大漁焼き



▲羅臼港とにつぼん丸

2月8日～9日	暴風雪により標津町から羅臼町幌萌町間の国道が通行止め。一時車両20台が立ち往生
2月14日	マツカウストーンネル貫通式
3月2日～3日	暴風雪により標津町から羅臼町幌萌町間の国道が通行止め。道東のほとんどの道路が通行止めとなったほか、中標津町では立ち往生により5名が死亡した
4月8日～9日	暴風警報解除後、再度暴風が吹き荒れ、多くの家屋公共施設等が被害に。最大瞬間風速42.6mを記録
8月29日	につぼん丸羅臼に初寄港
10月6日	羅臼高校 「高校生チャレンジグルメコンテスト」 「IOWA」北海道知事賞受賞（らうす大漁焼）
12月9日	イカ漁水揚げ高58億円突破

■平成26年(2014年)～平成28年(2016年)

平成26年12月、九州の南海上で発生した低気圧が急速に発達しながら北上し、北海道各地で暴風雪や高潮災害が発生。羅臼町においても333件にもものぼる高潮災害が発生したほか、根室港で2.0m、別海町で2.1mの高波が発生し、住宅の床上・床下浸水などの被害が発生しています。

この年の8月には、第1回目の「しれとこ羅臼こんぶフェスタ」が本町通りで開催されました。このイベントは「羅臼の魅力をもっと発信したい」と考えた街の若者たちが中心となり行われたもので、羅臼昆布にスポットを当て、「みて・さわって・たべて」をキーワードに、羅臼昆布の製造工程を体験できるコーナーや羅臼昆布を使った料理の出店等、羅臼昆布の魅力が詰まったイベントとなり、多くの観光客や町民で賑わいました。



▲こんぶのヒレカリの技を習う



▲高潮の災害により多くの番屋が破損

平成26年(2014年)

3月17日 マツカウストンネル開通

6月1日 「知床国立公園」指定50周年を迎える

6月8日 三國清ニシエフが「羅臼昆布・うに大使」に就任

8月7日 町内の若者の有志による「第1回しれとこ羅臼こんぶフェスタ」開催

9月20日 羅臼高等学校が「高校生チャレンジグローバルメコンテストラ・エクスアド」において2連覇達成(らうす紅白揚げ)

12月17日 爆弾低気圧の影響により町内で333件の高潮被害発生

平成27年(2015年)

2月2日 観測以来最大の積雪179センチを記録 自衛隊へ災害派遣要請

3月4日 羅臼町公民館が「第67回優良公民館表彰」にて「優秀館」を受賞

3月15日 海岸町コミュニティセンター完成

4月1日 知床羅臼町観光協会法人化 一般社団法人へ

4月24日 幌萌町海岸10メートル超隆起 近くで大規模崩落

4月27日 第1期 湊屋町政はじまる

5月17日 歌手の吉幾三氏、羅臼大使に就任

平成27年は、歌手の吉幾三氏が羅臼大使に任命され、各方面で羅臼のPRに努めていただくこととなりました。

また、この年は知床が国立公園指定50周年、世界自然遺産10周年となる記念すべき年であり、環境省、林野庁、北海道、斜里町などと共に記念式典と講演会を行いました。

平成28年は、羅臼町始まって以来の大災害を迎えた年となりました。8月から9月にかけての継続した大雨により、町内各所で土砂災害が発生し道路が分断、ライフラインも停止するという未曾有の事態となり、改めて一人ひとりの防災意識の醸成が重要であると認識する出来事となりました。



▲長期間に及んだ降雨の影響で崩落し町が寸断

- 7月 7月4日 (株)バスクリンの古賀氏、羅臼昆布大使に就任
- 7月 7月12日 知床国立公園指定50周年・世界自然遺産10周年記念式典
- 9月 9月4日 ミラノ万博で羅臼昆布の魅力PR
- 10月 10月11日 北海道松法川北岸遺跡出土品が国重要文化財に指定される
- 10月 10月16日 羅臼高校「第3回高校生チャレンシグルメコンテスト」(エOKKADOO)で商品企画賞受賞(らうす豊漁まん)
- 12月 12月1日 ラウスツノナガモエビ新種認定
- 12月 12月1日 羅臼町ふるさと納税返礼品制度開始

平成28年(2016年)

- 6月 6月18日 客船につぼん丸が羅臼大使に就任
- 6月 6月26日 根室管内消防団員技能競技訓練大会にて羅臼消防団総合優勝
- 7月 7月1日 料理レシピ掲載サイト「クックパッド」に町公式ページ「知床羅臼町キッチン」開設
- 8月 8月24日 台風や低気圧の影響で道内を直撃した豪雨により町内各地で相次いで土砂災害発生
- 9月 9月8日 「ガサエビ」新種に認定。「ダイオウキシンエビ」と命名
- 9月 9月9日 台風や低気圧の影響で道内を直撃した豪雨により町内各地で相次いで土砂災害発生
- 10月 10月9日 羅臼高校「第4回高校生チャレンシグルメコンテスト」優勝(およげ!コブスケらうす スケソパイ a nd 昆布「飯)

■平成29年(2017年)～令和3年(2021年)

平成29年には、これまで多くの町民が利用してきた図書バス「かもめ号」が、新車両となって生まれ変わりました。新デザインは羅臼に住んでいた経験のある後藤真希子さんが担当し、温かみのある羅臼らしい図書バスとなりました。



▲後藤真希子氏のデザインで復活したかもめ号

平成30年は、羅臼中学校と春松中学校を閉校し、新たに知床未来中学校が開校。開校式には、校歌を作曲した羅臼大使の吉幾三氏がサプライズで登場し、全校生徒とともに新校歌を熱唱しました。生徒達の元気な校歌斉唱を聞き、吉氏の目からは涙が見られるなど、非常に感動的な式典となりました。



▲知床未来中学校生徒と校歌を歌う吉幾三氏

平成29年(2017年)

2月8日 図書バス「かもめ号」が新車両で復活 お披露目式開催

3月27日 羅臼漁業協同組合代表理事組合長に萬屋昭洋氏就任

10月8日 羅臼高校「第5回高校生チャレンシグルメコンテスト」準大賞(らうすトロイカップ)

10月12日 海洋深層水利用学会全国大会羅臼町開催

12月3日 羅臼中学校、春松中学校閉校式

12月22日 知床らうす新商品開発プロジェクト 青森県の西目屋村とコラボ商品を開発し、返礼品へ追加

平成30年(2018年)

2月16日 知床・地方版図柄入りナンバー導入検討協議会 知床ナンバー導入申請決定

4月1日 羅臼町立知床未来中学校開校

4月10日 羅臼町立知床未来中学校開校式実施 校歌を作詞作曲した吉幾三氏サプライズ登場

5月22日 国土交通省にてご当地ナンバー「知床」の導入決定

7月23日 ヒグマがヤギを襲う1頭死亡

8月1日 ヒグマが飼い犬を襲う2頭死亡

10月7日 羅臼高校「第6回高校生チャレンシグルメコンテスト」グランプリと商品企画賞受賞(らうすコロツと飯)

平成31年(2019年)

1月16日 羅臼沖でエビの3新種発見

新しい年号である「令和」が5月1日にスタートしたこの年、その幕開けにふさわしい出来事が多くありました。まず、羅臼町の主力観光コンテンツの一つホエールウォッチングの主役である「シャチ」の白い個体が羅臼沖で発見。日本近海での撮影は非常に稀であり、ニュースにも取り上げられました。続いて、羅臼町出身者である森大翔君が世界の若手ギタリストの



▲世界でも珍しい白いシャチ（写真は令和3年7月撮影のもの）
写真提供：知床ネイチャークルーズ

頂点を決める大会「ヤング・ギタリスト・オブ・ザ・イヤー」で見事優勝するなど、記念すべき令和元年は、羅臼町にとっても嬉しい話題に溢れていました。

令和2年は新型コロナウイルスの蔓延により、世界中が未曾有の事態となり、これまでの生活が一変。その影響により、羅臼町の大きな節目である羅

3月11日
4月27日

町民体育館、公民館「地震の振動及び衝撃に対して倒壊または崩落の危険性が高い」との診断結果から利用中止へ
第2期 湊屋町政スタート

令和元年（2019年）

5月16日

羅臼沖で真つ白なシャチを目撃 日本近海での撮影は極めて異例

7月10日

ヒグマが飼い犬を襲う 1頭死亡

7月26日

ヒグマが飼い犬を襲う 1頭死亡

8月3日

ヒグマが飼い犬を襲う 1頭死亡

8月26日

商工青年部主催 熱気球体験搭乗会実施

9月21日

ヤング・ギタリスト・オブ・ザ・イヤー2019で森大翔さん世界一に輝く

10月1日

羅臼町女性消防団員誕生

10月21日

初の試み高校生の一日議会開催

12月24日

羅臼町シルバーいきがいセンター設立

令和2年（2020年）

2月27日

新型コロナウイルス感染症を受け幼少中が2月27日から春休みまで休校

4月16日

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて知床開きの開催中止が決定される

5月6日

羅臼に帰省できなかった学生へ「おうえん特産品小包」を発送

5月11日

地方版図柄入りナンバープレート「知床」交付開始

5月18日

羅臼町120年記念事業延期決定

臼町120年町政施行60年を祝う記念事業を始め、多くの事業が中止となりました。

また、道の駅や観光事業者への営業自粛要請を敢行する等、町内経済にも多くの影響を与え、観光入込客数も計測して間もない昭和40年代と同じ20万人台まで落ち込みました。

しかし、そんな状況にあっても、根室市、標津町、羅臼町、別海町の連名で、

文部科学省の日本遺産へ申

請し、「鮭の聖地」として日本遺産に認定。9月には各機関、町民、アウトドアブランド(株)スノーピークが連携し、町民スキー場を活用したことでしか作ることができない空間演出によるキャンペーンイベントを開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、できる事をできる形で取り組み、羅臼町は前へと進んでいます。



▲おうえん特産品小包で羅臼出身の学生を支援

令和3年(2021年)

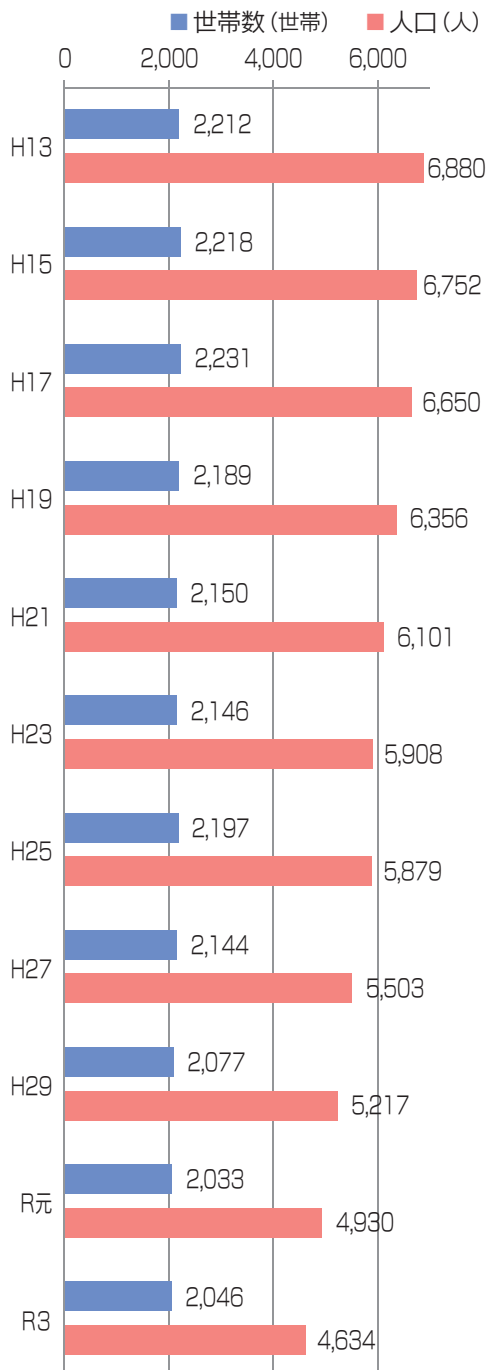
- 6月19日 「鮭の聖地」の物語 根室海峡一万年の道程〜日本遺産に認定
- 8月 羅臼町で初の新型コロナウイルス感染者発生 建設業協会が悪疫退散花火を打ち上げ
- 8月8日 知床羅臼 National Park Festival 2020 開催 (〜10月4日)
- 9月25日 高校生一日議会開催
- 10月13日

- 3月10日 知床開き中止決定
- 3月16日 2050年までに脱炭素社会を目指す、ゼロカーボンシティを宣言
- 4月1日 峯浜町 桜井憲二さんが発見した魚類の化石が新種と認定、「サクラライラウスシロカサコ」と命名
- 5月16日 新型コロナウイルス集団接種始まる
- 6月25日 ヒグマ対策として町内会、建設事業者と町の協働による草刈り実施
- 6月27日 ヒグマが飼い犬を襲う 1頭死亡、2頭負傷
- 9月6日 羅臼町120年事業の一部中止と延期決定
- 7月1日 羅臼町民体育館が「らうすば」の愛称でリニューアルオープン
- 10月6日 千島連盟羅臼支部と羅臼町により、北方四島洋上慰霊を実施
- 10月8日 羅臼町と株式会社スノーピークが包括連携協定
- 10月19日 羅臼町100年タイムカプセル開封
- 10月31日 新型コロナウイルス集団接種終了
- 11月9日 羅臼町120年記念功労者特別表彰実施
- 12月23日 「2021年 前澤友作ふるさと納税」に羅臼町が当選(500万円寄付)

データで見る20年

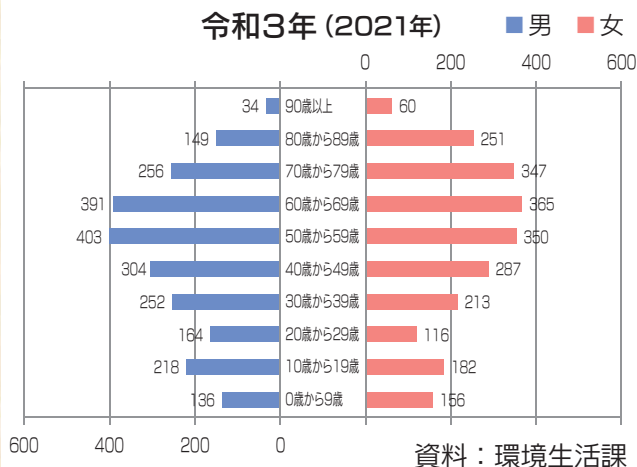
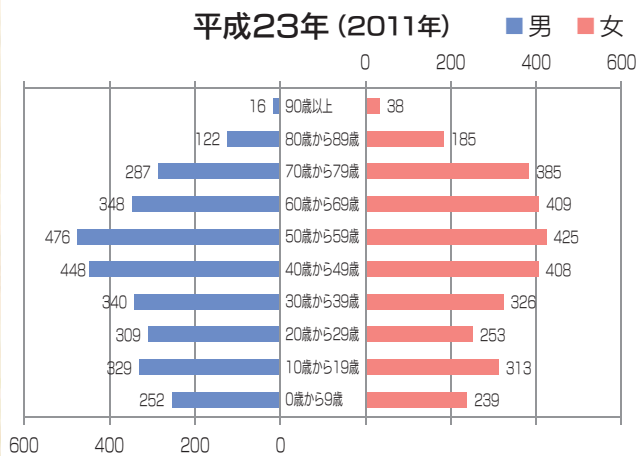
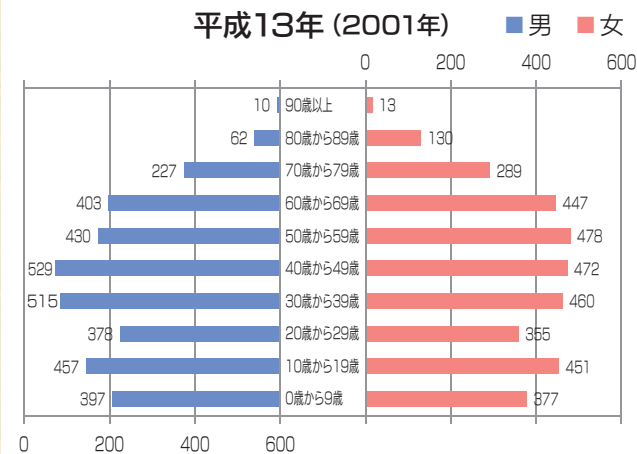
羅臼町100年から20年が経過し、人口や産業はどのように推移したのでしょうか。数字で20年間の動きを見てみましょう。

人口・世帯数推移



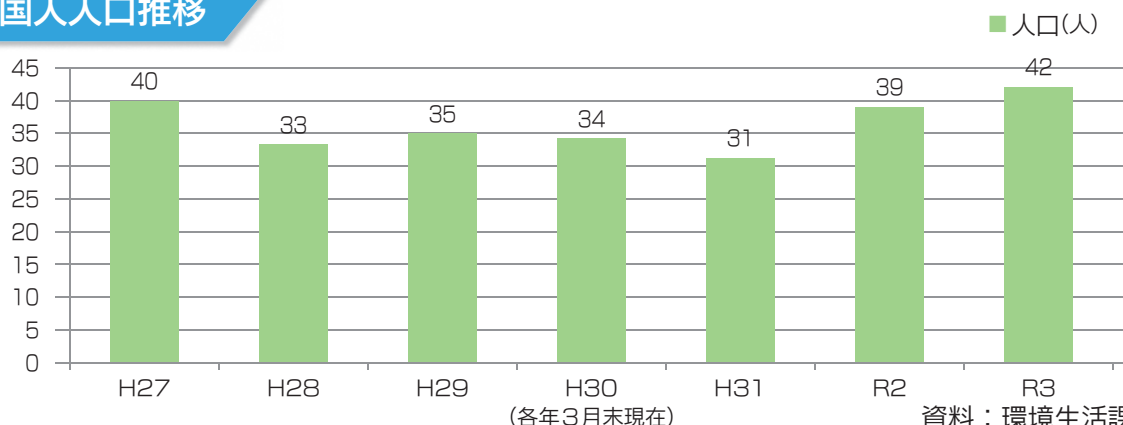
資料：環境生活課

10歳階級別人口



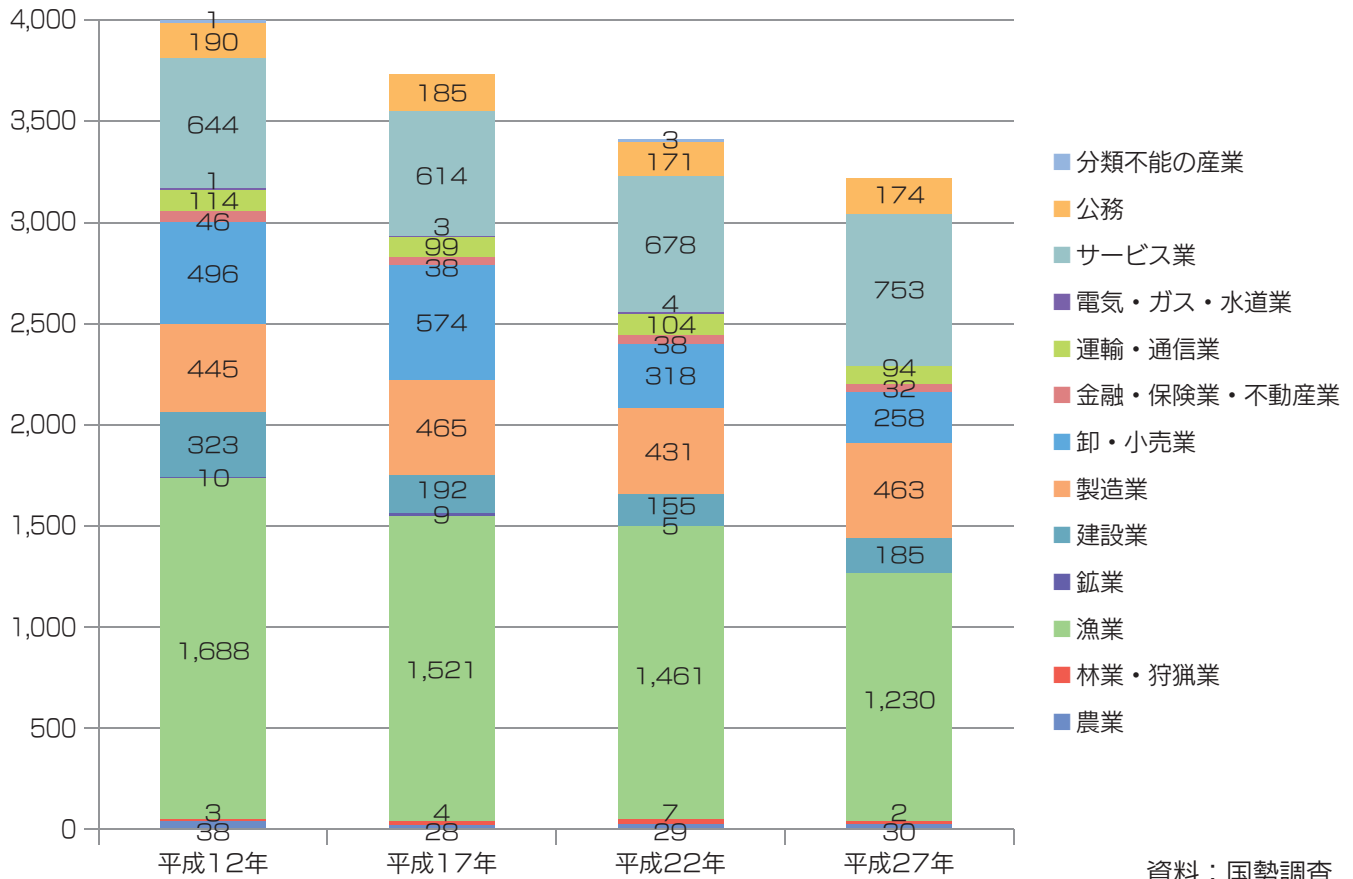
資料：環境生活課

外国人人口推移

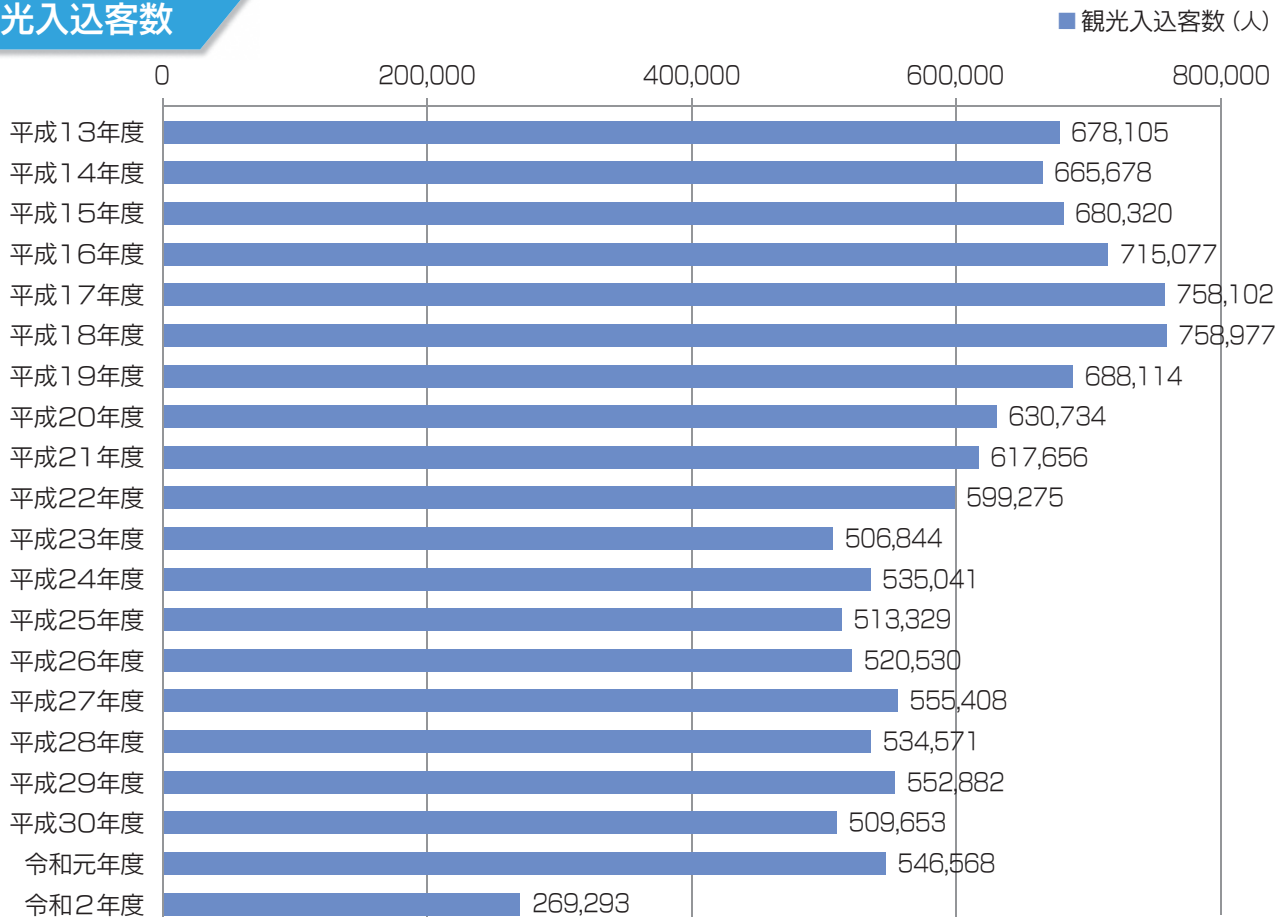


資料：環境生活課

産業分類別就業者数



観光入込客数



主要魚種水揚量

単位：t

	平成13年度	平成18年度	平成23年度	平成28年度	令和2年度
すけそ	8,637	11,319	10,224	8,126	3,082
秋さけ	18,834	17,552	7,367	6,968	1,493
けいじ	3	6	6	1	1
ほっけ	5,885	6,546	3,423	119	1,512
めんめ	99	69	75	46	51
うに	132	19	119	122	67
たら	3,040	2,864	3,422	2,107	3,959
かれい	1,219	905	1,164	998	1,181
いか	17,151	1,936	26,476	430	224
おひょう	29	16	41	33	17
その他	1,691	2,038	4,542	2,922	7,143
こんぶ	453	419	305	215	336
合計	57,173	43,689	57,164	22,087	19,066

資料：産業創生課

主要魚種水揚高

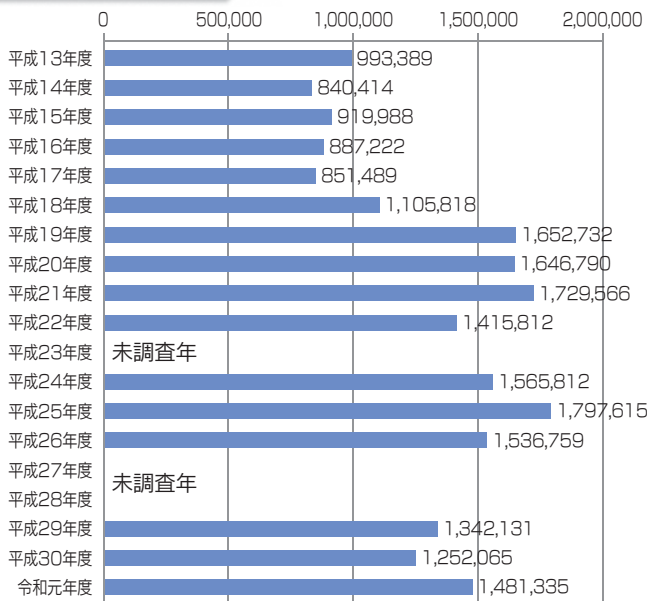
単位：千円

	平成13年度	平成18年度	平成23年度	平成28年度	令和2年度
すけそ	1,493,858	1,937,610	815,468	1,150,733	440,548
秋さけ	4,077,827	6,259,612	3,759,010	4,774,476	1,164,998
けいじ	38,053	92,239	57,942	16,267	3,104
ほっけ	741,677	1,220,755	713,658	63,703	269,210
めんめ	243,088	179,724	223,142	174,960	163,423
うに	233,713	124,906	134,398	242,374	183,841
たら	765,782	763,785	956,583	945,142	846,758
かれい	312,578	184,213	230,524	154,030	172,484
いか	1,316,528	463,492	4,732,231	279,898	122,425
おひょう	33,994	17,451	24,507	22,396	6,709
その他	386,159	549,553	1,372,865	776,494	2,098,735
こんぶ	1,273,471	1,059,119	651,887	490,517	846,926
合計	10,916,728	12,852,459	13,672,215	9,090,990	6,319,161

資料：産業創生課

製造品出荷額

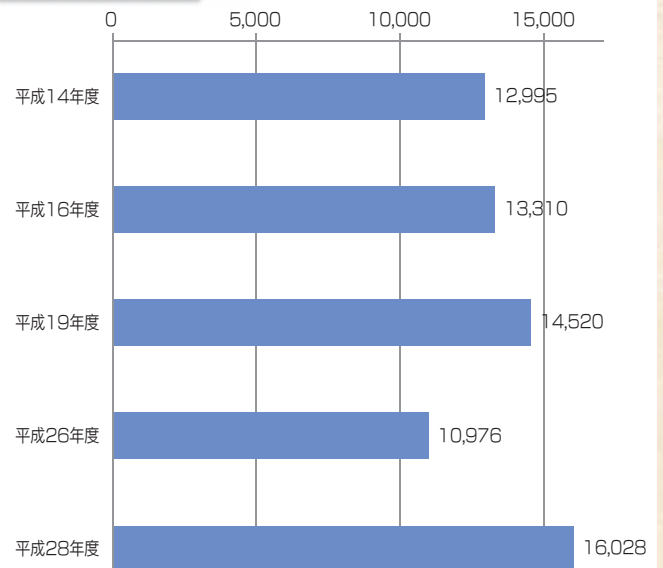
■ 製造品出荷額 (万円)



資料：工業統計調査

商品販売額

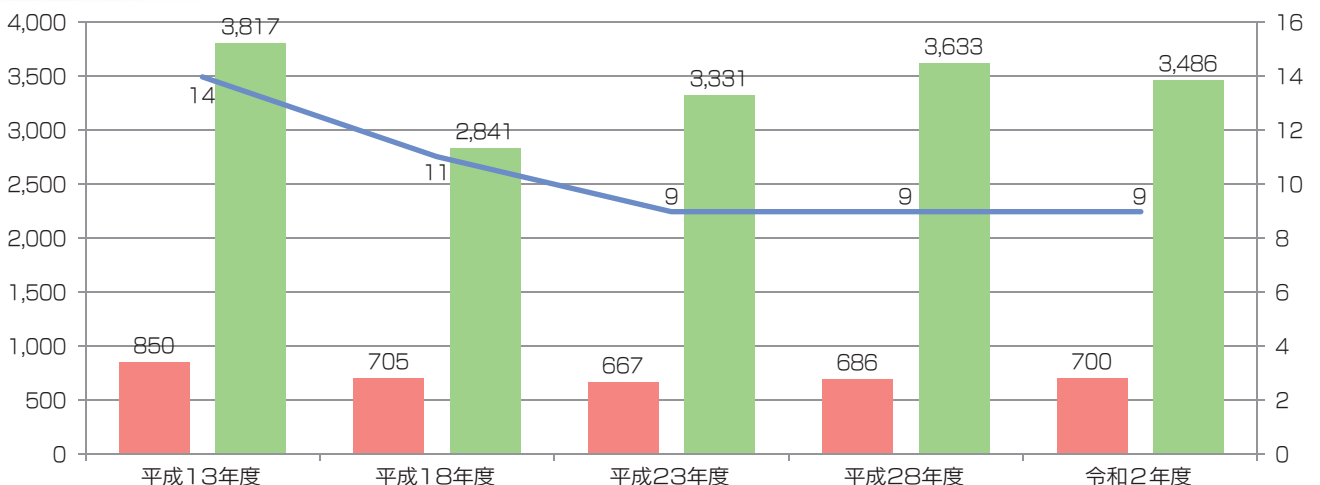
■ 商品販売額 (百万円)



資料：商業統計調査、経済センサス

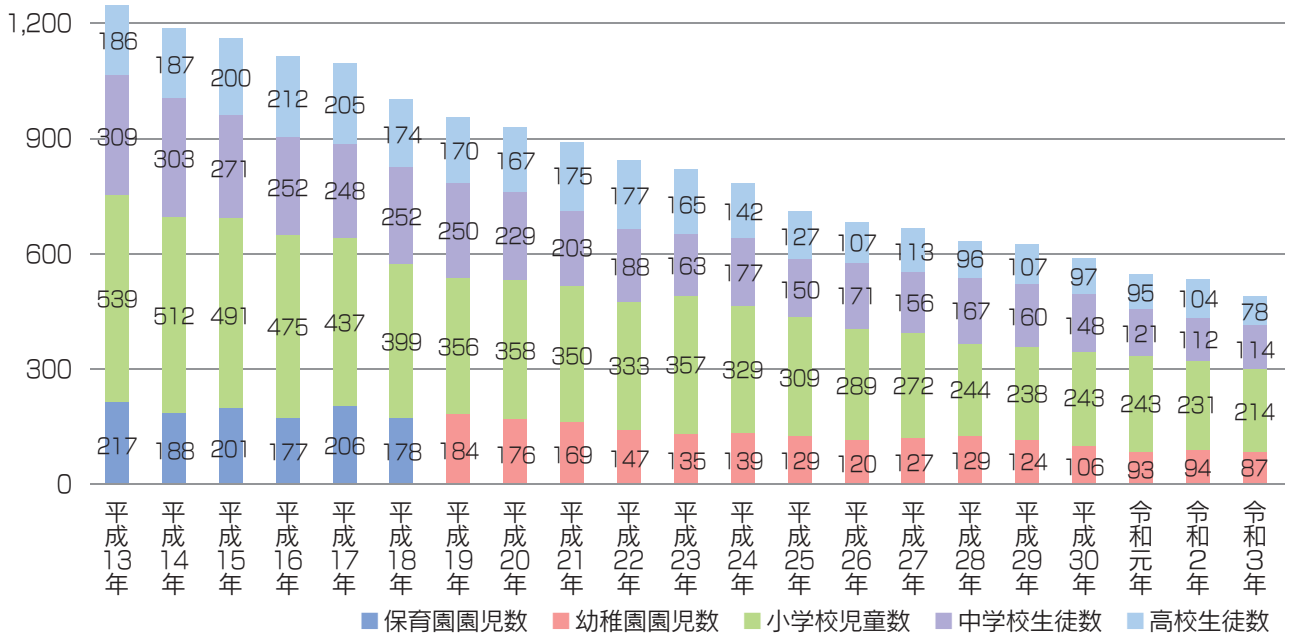
酪農業

■ 乳牛数(頭) ■ 出荷量(t) ■ 乳牛数(頭)



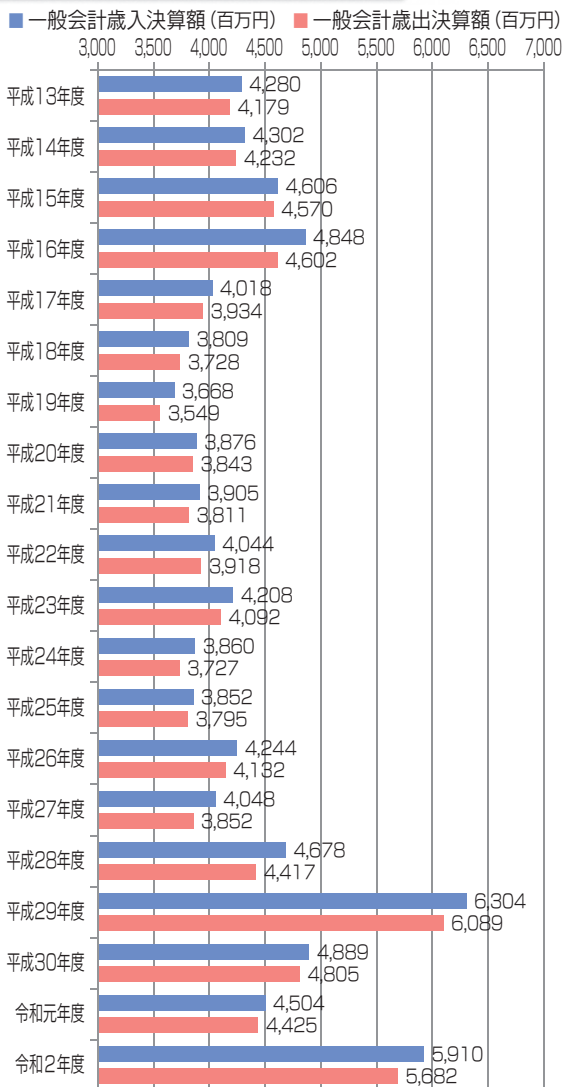
資料：産業創生課

園児・児童・生徒数



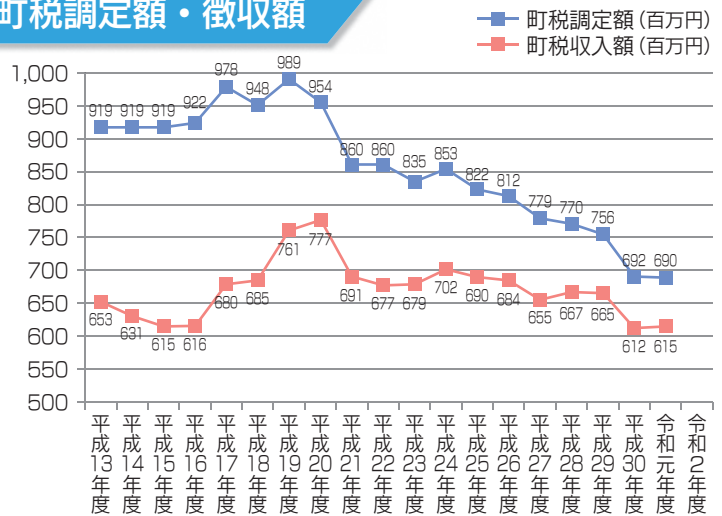
資料：教育委員会学務課

一般会計歳入歳出決算額



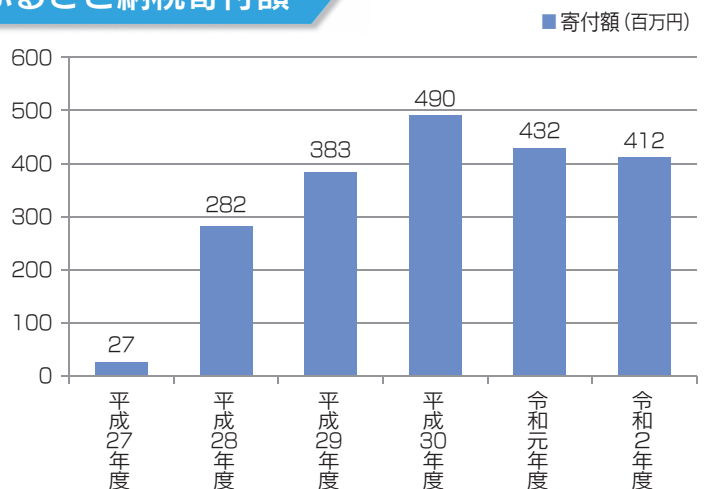
資料：税務財政課

町税調定額・徴収額



資料：税務財政課

ふるさと納税寄付額



資料：税務財政課

これまでも これからも 知床とともに

人口減少や少子高齢化、基幹産業の低迷、未知のウイルスの影響による生活様式の変化など、一見すると羅臼町は過去に類を見ないほど悪い減少が起きているように感じるかもしれない。

しかし、羅臼町は120年の長い歴史の中で、私たちが知らないだけで、何度も何度も厳しい時代を体験し乗り越えてきたはず。

町を支える町民のたくましさはもとより、今ではたくさんの企業が羅臼町の魅力を感じ、応援し、ともに未来へ歩んでくれています。

まだまだ羅臼町は光ります。

羅臼町が日本の輝ける地域として世界に羽ばたいて行くよう、これからも取り組みを進めていきます。



知床羅臼野遊びフィールド
(町民スキー場第2ゲレンデ)
町民とアウトドアブランドの協働
眠っていた施設が再び輝き出す



世界自然遺産のまち・知床羅臼町

■広報らうす 120th+1 特別号

編集／羅臼町 企画振興課 企画振興係
〒086-1892 目梨郡羅臼町栄町100番地83
☎0153-87-2114
<https://www.rausu-town.jp/>